



KAMIYAMA Seconds!

2025年3月19日掲載

米国の消費への不安

米国の消費が、小さくですが揺らいでいます。17日発表の2月の米小売売上高は、前月比で増加したものの増え方が市場の予想より小さく、また1月分がマイナス成長に下方修正されました。

消費はそれほど悪くないと受け止めた米国株、さらに翌18日の日本株も上昇しましたがちょっと心配です。トランプ氏が大統領選に勝利してからの小売売上高の急上昇は、関税に備える前倒し需要が含まれるからです。

前倒し需要は意外に早く勢いを失ったようです。トランプ政権の関税率引き上げは、消費の前倒しや業者の在庫積み上げでまだ具体的に消費を痛める状態ではないはずですが、消費者が将来の値上げを見越して、先回り買いをするのではなく貯蓄の積み上げに向かうとすれば、悪化する消費者心理が景気悪化要因になります。

ミシガン大学の消費者信頼感指数はこの2カ月でコロナ期に近い状態まで大幅に低下しており、関税政策で消費者が心理的な圧迫を受けている恐れは十分あります。

米国の消費はソフトランディング、つまり穏やかに横ばいになると想定していますが、もし意外に悪化してしまうと、国内景気悪化や輸入鈍化、世界景気の想定以上の悪化につながります。

仮に1四半期程度のGDPのマイナスがあっても景気後退と呼ぶほどではありませんが、想定以上の経済の調整が株式市場のリスクとなります。このケースではアメリカの政策金利の急な引き下げと円高にもつながります。

日本では賃金上昇と消費回復継続が経済成長を支えるともていますが、一時的に市場心理が悪化する恐れがあります。

(日興アセットマネジメント チーフ・ストラテジスト 神山 直樹)

《本資料は執筆者の見解を記したものであり、当社としての見通しとは必ずしも一致しません。本資料のデータは各種の情報源から入手したものです。正確性、完全性を全面的に保証するものではありません。また、作成時点で入手可能なデータに基づき経済・金融情報を提供するものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定はお客さまご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。》